令和8年度　島根県立東部・西部社会教育研修センター　対象者別研修　兼　市町村社会教育担当者研修

R8.10.8(木) いわみーる

社会教育委員・担当者共に学ぼう！研修

ー連携・協働をめざし新たな学びをー

【講義】社会教育委員・担当者の職務に期待されること

文教大学　人間科学部　教授　青山　鉄兵さん



社会教育/社会教育委員のことを知らない人にどうやって説明するか

(1)社会教育の定義と社会教育らしさ

・家庭・学校「以外」の場で行われる教育で、子どもから大人までの全世代を対象。
⇒「社会教育らしさ」につながっている。

(2)社会教育における「教育」と「学習」を捉える視点

・一般的な「教えられる勉強」ではなく、「自発的」「相互的」「多様」で暮らしと結びついた「うっかり生じる学び」（意図しない学び）を肯定し応援。
⇒〈学校外教育としての社会教育〉と〈地域づくりの基盤としての社会教育（的なもの）〉

社会教育委員に期待されること

(1)なぜ？社会教育委員がいるのか？

・「自治体の社会教育（行政）のあり方を住民自身が決める」ための住民参加のしくみ。

・求められる社会教育は自治体ごとに違う
⇒地域の状況に応じた社会教育の取り組み

・社会教育委員はまちのキーパーソン。
⇒社会教育委員は、社会教育行政と地域・住民をつなぐパイプ役を担っている。

(2)理想と現実のギャップをどう埋めるか

・会議だけで終わらせず「行動する社会教育員」としてのネットワーク形成が求められます。



「地域づくり」のために社会教育ができること

・遊びや交流を楽しむ中で、うっかりが生まれやすい場をつくる。

・公民館や担当者が核となり、他の機関・団体・学校・ボランティア等との連携。

（講義資料より）

【実践発表】邑南町社会教育の会の軌跡と未来 ～最近の社会教育委員は英語が喋れる！？～

邑南町社会教育委員の会
邑南町学びのまち推進課





■邑南町がめざす社会教育とは
・「将来の隣人を地域総がかりで育む」
・「世界へ羽ばたける力の育成」と住民主体での子どもの育成・地方創生を推進

■邑南町社会教育委員の活動
・社会教育委員の会は14名で構成
・独自事業企画運営　家庭教育支援事業

■家庭教育支援事業「ちょこっと世界旅行」

・**事業のきっかけ**
小学校で始まった英語の教科化に伴い、「英語の楽しさ」を伝えようと、海外駐在経験のある社会教育委員を中心に実施

・**事業の内容**
公民館を外国にみ立てた入国審査などの場面設定ゲームで集めたコインで工作体験

・**事業の成果**
事業後の参加者の笑顔
高校生がスタッフとして参加
町教育委員会主催のイベント内での協働展開



■連携・協働について
・スポーツ推進協議会との連携事業の実施
・行政と企画段階から会議を行っている

■今後の活動について
・会議では一言だけでも思いを共有する
・「ちょこっと世界旅行」事業を町内の公民館で自主開催として楽しさや意義を伝える
・コミュニティ・スクールに伴う、学校と地域をつなぐ

【演習】連携・協働し、共に学びをつくる『社会教育委員・担当者』をめざして

〈社会教育委員・委員の会〉
「今後やってみたいこと」「連携・協働の視点でどう動き出すか」について考え、ワークシートに記入し、その後意見交換する







〈担当者〉
「社会教育委員のみなさんとやってみたいこと」について考え、ワークシートに記入し、その後意見交換する







〈全体共有〉





【アンケートから】
・何か一つでも活動につなげられたら良いなと思いました。行政主導ではなく主体的な動きが生まれたら、新しい変化が発生すると思うので、一緒にやるグループがどんどんできるように広がっていくサポートがしたいと思いました。
・社会教育委員として今まで通り地域に出てたくさんの方々とつながり、たくさんの方の話を聞き、地域を盛り上げていきたいと思いました。一人ではできないことでも、たくさんの方と協力して動けばもっと面白い、素敵な社会ができるのではないかと思いました。
・午後の実践発表は、活動のヒントがたくさんありました。それぞれの社会教育委員の強みを活かした活動がステキだなと思いました。